まちの話題

次のページ

ふるさと学習「御柱祭記念講演」

3月2日にコミュニティ・プラザにおいて御柱記念講演会を開催しました。記念講演は今回で3回目で「ネパールの御柱祭と諏訪の御柱祭」と題し、ネパール文化研究家寺田鎮子さんより、御柱祭はネパールのインドラ・ジャトラ祭と共通点が多く、山出し・里曳きや柱を立てる様子はそっくりとのことでした。柱祭りの伝承を持つ地域を世界地図に落としていくとインド・オリッサ周辺から各地に広がっているとのことで、御柱祭がどのような経過で諏訪へきたか今後の調査でわかってくるかもしれないとのことでした。御柱記念講演には町内外より大勢の方が集り、関心の高さがうかがえました。

◀ 講師の寺田鎮子さん

コミュニティ・プラザで行なわれた御柱祭記念講演

御柱祭本番間近

3月13日、朝7時前から落合地区で柱を曳く元綱を総勢250人の氏子により「綱撚り（つなより）」が行われ、長さ64メートル、目通り（太さ）62ｃｍの立派な元綱2本を完成させました。こうした準備が進むにつれ、御柱祭がいよいよ本番間近になり、氏子の皆さんの気持ちも少しずつ高まってきています。

綱撚りの横で応援する子ども木遣り隊

綱撚りをする落合地区の氏子の皆さん

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより

小林十三雄
東京都あきる野市
（芋の木出身）

「大悲願寺」

東都高原富士見会が新宿中村屋で開かれた。いつも新宿三平で行うこの会の役員会には遅刻常習の私である。

臼井吉見の小説「安曇野」に信州、安曇野、諏訪（井戸尻・釜無川・御柱）、東京、横浜、武蔵五日市横沢の大悲願寺、鎌倉、アメリカ等での舞台が克明に描かれています。

中村屋の主人相馬愛蔵と妻の良（黒光）、彫刻家の荻原碌山とロダン、インドのボース、政友会小川平吉、島木赤彦舞台の一つ大悲願寺さんは私の隣組ゆえ日参お茶を頂いています。碌山美術館には是非行きたいと思っています。

大悲願寺は仙台藩主伊達正宗が秋川の川狩りに訪れ、その帰りに末の弟秀雄に合うため、悲願寺に寄りました。その時大悲願寺の白萩があまりにきれいだったため、仙台に帰ると「その萩を所望したい」と手紙を送ったことから、「白萩白書」と呼ばれて重要文化財になっています。又、大悲願寺の近くに正一位岩走神社があります。信州伊那から十二名がこの地に移り住み、宮沢左京藤原秀周（すえちか）が祠官となり、代々宮沢家に引き継がれています。信濃國総鎮守（戸隠神社奥社）の手刀男の命を祀られています。12名の中に石工が多く、井戸を掘ったり、伊奈石を掘り出し、石像仏、五輪塔、石碑等を造り、筏で秋川を各地に運び出したと記録されています。地名も伊奈となっています。

相馬愛蔵家は戦時中悲願寺さんの方丈に住んでいました。